将来は今始まる

研究所所長DarlingtonAgho1orとのインタビュー

Q. このプロジェクトの根底にある精神は何ですか?

A.このプロジェクトは、オプス・デ イ創立者、福者ホセマリア・エスク リバーの教えの実りである、全世界 で繰り広げられている多くの社会福 补プロジェクトのひとつです。福者 ホセマリアは、社会の恵まれない 人々が人間としての尊厳ある生活を 送るために必要な手段を得ることが 出来ないでいることを心配し、その 社会を改善することに手を貸したい と願っていました。私たちは、すべ ての人に神の子としての姿を見る深 いキリスト教的な慈善事業のあり方 を福者から学びました。福者ホセマ

リアは、誰もが『神の子』であると いつも強調していました。「人間に 上下はありません!人間はみな同じで す!一人ひとりは同じ価値を持ってい ます。それぞれの人がキリストの血 に値するのです!| 福者は、できるだ け早く善意の人々と力を合わせて技 術研修センターを始めるよう奨励し ました。そして、そこでできるだけ 多くの若者が必要な技術を習得する と共にしっかりしたキリスト教的な 形成を身に付けることを夢見ていま した。私たちは、その夢をかなえよ うとしています。2000年3月27日、 HTは最初の十人の訓練生を迎え入れ ました。大きな夢の小さな第一歩を 踏み出したのです!2002年1月9日 は、福者ホセマリア・エスクリバー の生誕百年記念です。つまり、この 専門学校は福者の生誕百年に対する 一種の誕生日プレゼントといえま す。質素ですが心を込めてこれを記 念碑として捧げようと思います。こ の事業は日常の什事を通して聖件を

Q.1ITではどのような教育システムが 採用されていますか?

A. 最初にドイツ、そしてフィリピンでも実施され経験豊富な二重訓練システムを採用しています。それは形成課程と実技課程という2つの異なった環境・状況でバランスよく教育を受けるシステムです。形成課程では、基本的な教育・文化・社会・倫理のクラスを提供し、実技課程で

は、グループで協力しながら専門実 技の経験をつむことを提供します。 学校は3つのコースを準備していま す。中・高等学校中退者のための18 歳から21歳対象の3年間の電気工学 気ース、労働者のための2年間の電 気工学短期コース、そして集中コー スです。生徒は、ここで熟練、エレク スです。生徒は、ここで熟練、エレク トロニクス及びオートメーションの 専門家になる準備をします。

Q.ナイジェリアにおける技術教育は どのような状況ですか?

A.ナイジェリアでは、経済発展の頼みの綱である技術教育に当然与えられるべき優先的な待遇が一度も与えられてこなかったと、最近政府筋によって認められました。第二次世界大戦後、ドイツでは技術教育を重視したおかげで国の復興が町能になりました。ところが、長い間ナイジェリアでは技能を生かした手仕事が軽

蔑され、唯一権威ある教育として大 学教育が優先されてきました。この ような偏見で「ホワイトカラー」が 大切にされ、技能を養成する専門学 校は軽視され、政府もそれを推進す ることなく、専門学校もほとんどな い状態でした。長年、この間違った 態度を変えることができなかったの です。その結果、たくさんの人々が 失業したままでいるのです。企業が 専門学校の卒業生を受け入れると き、技能レベルを上げるために再教 育しなければならないのが現実で す。これらの企業の多くが再教育す る十分な力を備えていないので、た くさんの人が失業したままでいるの です。それぞれの企業が自前で教育 することは、産業の第一目的ではな いし、効率も悪いことが判明してい ます。したがって、IITは個人にとっ ても企業にとっても必要なのです。 11Tは十分な訓練、養成を準備し て、企業に縛られず独力で技能を修 得したいと考える人々の希望に応え

ていきます。IITの卒業生は生産産業やサービス産業からひっぱりだこになると思います。

Q.地方産業の反応はいかがですか?

A.最初から、地元企業は非常に前向 きで協力してくれています。私たち にとって最も大切な支援者は「カル ナード金属 | (CMB)でしょう。我々 に校舎を提供してくれている会社で す。1999年5月28口、話し合いの末 に、この会社の工場の中央にある技 術養成施設をリースする契約が成立 しました。その上、いくつかの旋盤 の機械と他の訓練機器についても便 宜を図ってくれました。他の会社か らも機械の寄付があり、これらのお かげで開校にこぎつけたのです。ほ とんど毎日、世界中から工業専門家 がIITを訪れ、自分の目でその成果を 確かめ、この学校に希望を託してい ます。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/jiang-lai-hajin-shi-maru/(2025/11/27)